生活協同組合コープおおいた
総合企画部広報課
〒870-0278 大分県大分市青崎1丁目9番35号
TEL.097-524-0119　FAX.097-524-0129
https://www.oita.coop

2030 VISION
コープおおいた2030年ビジョン

CO・OP OITA REPORT 2025

コープおおいたレポート

コープおおいた

［ 生活協同組合コープおいた基本理念 ］

『安全・安心、豊かなくらし』

ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために

組合員のくらしや地域社会でうまれた課題解決に向け、
事業と活動をとおして社会的な取り組みを推進しています。
人と人の結びつきを大切にし、地域のくらしを支え、
コープおおいたのある街に住んで良かったと
思っていただけるような存在でありたいと願っています。

CO·OP=Co-operative

生協はよりよいくらしを願う消費者一人ひとりが
組合員となって参加し、出資、利用、運営する協同の組織です。
営利を目的とせず事業を行う、自主的な消費者団体です。

［ 表紙イラスト ］

表紙は、大分県在住の絵本作家「ザ・キャビンカンパニー」による、大分の人々に寄りそい、夢のような未来へと導いてくれる「コープおおいた」を、方舟になぞらえたオリジナル作品です。

コープおおいたレポート2025
編集方針

コープおおいたは事業と活動をとおして、地域のくらしと社会をよりよくするためにCSR活動（企業の社会的責任）に取り組んでいます。コープおおいたレポート2025では、「コープおおいた2030年ビジョン」を指針とし、SDGs（持続可能な開発目標）との関連性を共に伝え、主な取り組みを抜粋してご報告いたします。

対象期間：2024年4月～2025年3月

CONTENTS

基本理念・組織概要 P2
トップメッセージ P4
大分県と県内すべての市町村と締結 包括連携協定 P5
災害支援 P6
コープおおいた2030年ビジョン P8
事業案内 P10

特集

特集1 産直交流会 P14
特集2 緑豊かな自然の中で 健康に育つ産直牛 国東市 株式会社ファゼンダ国東 P16

TOPICS P18
環境 P22
リサイクル活動 P25
コープおおいたと地域の歩み P26

コープSDGs行動宣言

2015年、国連で持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。コープおおいたも世界中の人々と共にSDGsの実現に貢献することを約束し、全国の生協と一緒に「コープSDGs行動宣言」を掲げています。

こちらも
ご覧ください。

組織概要 （2025年3月31日時点）

創立	／1952年（昭和27年）12月
代表者	／代表理事 理事長　青木博範
組合員数	／189,788世帯（世帯加入率38.1%）
出資金残高	／75.52億円
総事業高	／208.2億円
供給高	／宅配122.7億円　店舗77.2億円
福祉事業収入	／2.5億円
従業員数	／245名（正規職員）、488名（定時職員）
本部所在地	／大分県大分市青崎1丁目9番35号
事業エリア	／大分県全域
関連グループ会社	／（有）ヒューマック大分 （株）コープハウジング大分 （株）コープサービスおおいた （株）コープキッズおおいた （株）ハートコープおおいた （株）夢ファームおおいた

これまでも、これからも共に助け合い、時代の変化に対応するコープおおいたへ

私たちの生協は、組合員、生産者・取引先をはじめ、全国の友好生協や関連諸団体、地域のみなさんに支えていただきながら、今日まで事業と活動を続けることができています。あらためて、みなさんの深いご理解と、温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

生協は、組合員の“願い”や“思い”を、事業や活動を通して実現していく組織です。だからこそ、生協の役職員は、日頃から、組合員の声に耳を傾け、組合員の“願い”を聴き出さなければなりません。

その組合員数が約19万世帯（世帯加入率約38%）にまで広がり、組合員の声は地域の声とつながりはじめました。私たちが、大分県や18市町村と「地域包括連携協定」を締結した理由でもあります。

その協定項目にある買い物弱者支援や子育て支援、高齢者支援、大規模災害支援など、地域が抱えるさまざまな課題は、生協の事業や活動だけでは解決できません。

ある時は生協の枠を超えて、ある時は県域を越えて、その地域で活躍しているさまざまな人や団体と連携し、協力し、助け合いながら取り組んでいくことが必要になります。それが「一人は万人のために、万人は一人のために」という“相互扶助の精神”を大切にしている生協への期待ではないかと考えています。

例えば、大分市内ではじめた「みんなのスペース ぬく森」は、ボランティアや地域のみなさんに支えていただきながら、開所から1年が経過し、利用者や活動の広がりを見せています。

昨年、石川県・能登半島で大きな地震災害と豪雨災害が起きました。私たちは「被災地に思いを馳せ、被災者に寄りそうこと」を災害時の行動指針にしています。昨年は、能登町や輪島市町野町を中心に、地元の役場やボランティア団体と協力しながら、炊き出し支援や被災者との交流支援などを行いました。

この時の支援活動で見えてきた新たな課題が「支援物資の調達・配送」です。支援活動後、早速、大型無人飛行機（ドローン）を購入し、飛行資格の取得と飛行訓練を重ねています。この大型ドローンは近い将来、買い物弱者支援としても活かされます。

私たちは、コープSDGs行動宣言で掲げた「誰一人取り残さない、誰もが安心してくらし続けられる地域社会」の実現を目指し、組合員、生産者・取引先をはじめ、地域のみなさんと一緒になって取り組んでいきます。

引き続き、よろしくお願いします。

生活協同組合コープおおいた
代表理事　理事長　青木博範

大分県と県内すべての市町村と締結

包括連携協定

2013年より、大分県を含む19の自治体と各分野の関係団体、事業者、大学などと包括連携協定を締結しています。地域社会の一員として、役割を果たすため、多様化するくらしに対応する事業展開とともに地域が抱えるさまざまな課題の解決と持続可能な地域社会を目指しています。

協定のもとに実行していること

宅配カタログ掲載

「食べちょくれ！おいた」で佐伯市特集を掲載しました。海の幸からスイーツ、甘酒などさまざまな商品が組合員から好評でした。今後も各地域とのつながりを大切に、地場産品の販路拡大に努めます。

おにぎりコンテスト

グランプリ受賞▶

授業の一環で別府大学短期大学部食物栄養学科の学生におにぎりキッチンカー「むすびや」の新メニューを考案していただきました。大分県産品を使用することをテーマに多種多様なおにぎりが出揃い、グランプリをはじめとする5品を実際のキッチンカーで販売しました。学生の柔軟な発想で個性的なおにぎりメニューを開発することができました。

豊後高田市と防災訓練

豊後高田市河内地区で災害時の孤立集落を想定した物資の輸送訓練を行いました。訓練ではコープおおいたグループ会社である（有）ヒューマック大分より、物資輸送に使用するドローンの飛行や機能の説明などを行いました。災害時、自治体と迅速に支援ができるよう今後も協力体制を強化してまいります。

県との子育て交流会

現役のお母さんと行政が子育てサービスについて意見交換できる交流会を、大分県福祉保健部と共に、毎年開催しています。

宇佐市ウクライナ相撲団へ食材提供

国際大会に向け、宇佐市でウクライナ相撲ジュニア団の強化合宿が行われました。コープおおいたは2022年より合宿で使用する食材の提供を行っています。

2024年、大分県と県内すべての市町村と締結しました

締結自治体と締結年			
2017年 杵築市	2017年 豊後大野市	2021年 別府市	2023年 国東市
2017年 臼杵市	2017年 大分県	2021年 津久見市	2023年 豊後高田市
2017年 日出町	2018年 日田市	2021年 九重町	2024年 佐伯市
	2019年 大分市	2022年 宇佐市	2024年 姫島村
	2021年 玖珠町	2022年 竹田市	
	2021年 由布市	2022年 中津市	

災害支援

令和6年能登半島地震

NPO法人リエラを通じて石川県能登町役場および能登町社会福祉協議会より要請を受けキッチンカー「むすびや」による炊き出し支援を行いました。2024年1月、4月、5月、11月と計4回の炊き出し支援を行っています。とり飯、とり天など大分の郷土料理をメインに温かい食事を提供しました。

1 能登半島での炊き出し（2024年1月11日～）

2024年1月11日より石川県能登町の避難所や能登町役場で8日間にわたり炊き出し支援を行いました。発災から間もなく、多くの方が避難所での生活を余儀なくされていました。中には高齢者やお子さんの姿も多く、雪が降り積もる中での避難生活は辛いものだと想像できます。キッチンカーで作った温かい食事はとても喜ばれ、予定していた食数よりも多くの要請をいただきました。特に野菜が入ったものは「久しぶりに食べる」と大変喜んでいただけました。

2 仮設住宅へのお弁当配布（2024年4月3日）

石川県能登町の仮設住宅を中心に支援を行いました。
とり天、とり飯をお弁当にしてお渡ししました。小学生のお子さんもペロリと1人前を完食。「おいしかった」と大変喜んでくださいました。
また、仮設住宅で避難生活を余儀なくされているみなさんへコープおおいたより応援メッセージの寄せ書きをお渡ししました。

3 炊き出しとお子さんたちとの交流会（2024年5月23日）

輪島市にある地域スーパーの「もとやスーパー」を会場とした地域住民の方々への炊き出しと、能登町の仮設住宅にて支援を行いました。地域のお子さんとの交流会も開催し、碁盤遊びなどを一緒に楽しみました。

4 4生協合同支援（2024年11月28・29日）

石川県輪島市・穴水町にて、コープやまぐち、生協ひろしま、コープいしかわと合同で炊き出し支援を行いました。
コープやまぐちは瓦そば、生協ひろしまは広島お好み焼き、コープいしかわは温かい飲み物やお菓子、コープおおいたはとり飯ととり天のお弁当を提供しました。

令和6年8月台風10号

8月29日、30日に大分県を直撃した台風10号の影響により、大分県内各地で河川の氾濫や住宅浸水などの被害が発生しました。
コープおおいたは大分市社会福祉協議会からの要請で災害支援活動を行いました。

1 住宅のがれきや流木の撤去作業

9月4日～8日に賀来校区内宮苑地区にて5日間にわたり支援に参加したメンバー（のべ21名）は、主に住宅のがれきや流木の撤去、家屋の床板を剥ぐなどの作業を行いました。活動を行った集落は川沿いにあり、台風による集中豪雨の影響で河川が氾濫。住宅の浸水被害のほか、道路も一部崩壊しており、通行止めが多く発生していました。

2 家屋の泥出しや畳拭き上げ作業

9月13日国東市国見町にて、床下の泥出し作業や畳拭き上げ作業、がれきの撤去などを行いました。今回は裏山からの土砂が床下に流れ込んだ被害が多く見られました。作業後には、住民の方や区長さんよりお礼の言葉をいただきました。

COLUMN

コープおおいた災害支援先発隊

CODRA

コ ド ラ

2020年に発足した災害支援先発隊（通称：CODRA）は、有事の際にいち早く被災地へ駆けつけ、どのような支援がどれくらいの期間必要なのか等を迅速に判断し、支援活動につなげます。平時から実技研修や防災・減災に関する学習を重ねています。

Coop	コープ
Oita	おおいた
Disaster	災害
Recovery	復興
Assistance	支援

2030 VISION

コープおおいた2030年ビジョン

みんなのくらしに満足を！

～ここでくらす、コープがある。～

2030年の自分を、家族を、大分を、そして世界を想像しながら、
毎日のくらしが今より満足であるように。
その笑顔のそばに、いつもコープおおいたがあるように。

10年後のありたい姿

生協は協同の心を大切に、社会問題の解決や公平な社会システムの実現のために活動し続けてきました。今までもこれからも、地域でくらすみんなが満足し、笑顔あふれる社会を実現していきます。人と人のつながりを大切に、誰一人取り残さない持続可能な地域社会を見据え、「コープおおいた2030年ビジョン」を掲げます。私たち“みんな”の新たな10年間がはじまっています。

人とつながる、地域とつながるコープ

Mission 地域社会貢献

- 「コープSDGs行動宣言」に沿った取り組みをとおして、コープおおいたらしい地域社会貢献を
- 大分県内すべての市町村と「包括連携協定」を締結し、地域の課題をパートナーシップで解決しよう
- 大分県民みんながコープおおいたとその商品・サービス・活動を知っていて、いつでも頼られるコープへ

くらしに役立ち、寄りそい、支え合うコープ

Mission 組合員満足

- 多様化する地域の不安を解消し、期待と要望に応えられる「安全」「安心」「満足」な商品とサービスを
- 時代やくらしの変化に応じたコープ、地域の声をクイックに適正に反映できるコープへ
- 事業やサービス、組合員活動をとおして、世代や地域を超えた場と時間の共有を

自信と誇りを持って、安心して働き続けられるコープ

Mission 従業員満足

- ボランティアや地域活動をとおして、地域の元気に寄与できる環境と機会を
- 人を大切に、人が育ち育てる組織風土を
- みんなの挑戦を応援する組織と、自ら行動し意欲ある従業員に
- 人生設計に寄りそいながら、誰もが自分らしく活躍できる環境を

みんなが安心して、確かな将来設計ができるコープ

Mission 事業経営

- ビジョンを実現していく活動財源として、安定した事業経営基盤を
- 組織率 50%
- 地域生活の基盤となる事業やサービスを展開し、地域になくてはならない存在へ

2030 VISION

「コープおおいた2030年ビジョン」では
より詳細な行動目標などの情報を紹介しています。
コープおおいた2030年ビジョン https://www.oita.coop/2030vision/

宅配事業

信頼される商品を、心を込めてお届け

山間部や一部離島を含む大分県内全域で、共同購入・個人配達・法人配達を展開しています。徹底した品温・品質管理のもと、ご注文商品をご家庭や施設にお届けしています。毎日の配送をとおして、地域や高齢者の見守り活動も担っています。

共同購入

ご近所にお住まいのお友だちやお知り合いを誘って3名以上のグループを結成し、指定の配達場所に週に1回、決められた曜日と時間に注文商品をお届けします。週に1度のコミュニティの場にもなる、宅配のベーシックな利用方法です。

個人配達

週に1度、決められた曜日と時間にご自宅へ注文商品をお届けします。ライフスタイルの変化や利用者のニーズに応えた利用方法です。

法人配達

大分県に許可された福祉・教育施設などへ食材や雑貨・消耗品をお届けします。商品を一括で注文することが可能となり、施設従業員さんの業務軽減にもつながっています。

── 事業所 ──

- 日田センター
- 宇佐センター
- 日出センター
- 畑中センター
- 二目川センター
- 三重センター

店舗事業

来るときには楽しみを、帰るときには喜びを

コープおおいたのお店は県内に7店舗。コープ商品をはじめ、産直野菜や生鮮食品など「より良いものをより安く」をキーワードに地域のニーズに合わせた品揃えを展開しています。資源回収やプラスチック製品の削減など、環境に配慮したお店づくりを推進しています。一部店舗には調理室や集会室などの組合員施設があるのも特徴です。

Cataroカードでお得にお買い物

Cataroカードは組合員証兼電子マネー機能付きポイントカード。事前にチャージすることで会計時に現金を出す必要がなくスムーズに支払いをすることができます。

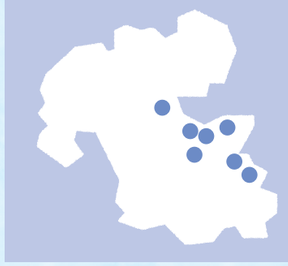
お買い物サポートカー事業

日常のお買い物にお困りの方や、高齢者を中心としたお買い物弱者支援策として、店舗への無料送迎サービス「お買い物サポートカー」を運行しています。ご自宅からお店まで車で片道およそ15分圏内の利用者を、専用車両でコープおおいたのお店まで送迎し、お買い物を楽しんでいただくサービスです。

移動店舗販売事業

生鮮食品から日用雑貨まで多様な商品を載せた移動店舗販売車両が大分県各地を回ります。商品は出発前に職員が積み込み、コースや季節ごとに異なるさまざまなニーズに応えて品揃えしています。利用者と職員のコミュニケーションの中で育まれる信頼関係と「くらしをより良いものにしたい」という双方の気持ちを大切にしています。

── 店 舗 ──



- コープ別府店
- コープ南大分
- コープ大分駅店
- コープ南春日
- CO･OPふらいる
- コープうすき
- コープつくみ

組合員の声

生協は組合員一人ひとりが主人公です。いただいた組合員の声は商品や運営に反映されていきます。
コープおおいたでは「よかったよ・よくするよカード」や総代説明会などさまざまな場で組合員の声を集めています。

2024年4月1日～2025年3月31日
1年間に集まった声の件数

1,813件

寄せられた組合員の声の主な内容

〈宅配〉・お届け形態（置き場所・集品袋）について ・いつもくんのお届け頻度、品揃えについて ・カタログのお届けについて ・納品書について ・商品梱包材について ・リサイクル物品拡大の要望
〈店舗〉・子ども用買い物カート設置の要望 ・行政が運営するポイント登録の要望 ・レストスペースの使い方について ・曜日別サービスについて ・コープ下郡閉店について ・商品取扱の要望 〈共済〉・請求方法について 〈商品〉・物価高に関する要望 ・冷凍食品の解凍方法について ・商品仕様変更の要望 ・包材変更の要望 〈組合員活動・広報〉・イベントの開催頻度、土日開催の要望 ・対象年齢の拡大について ・インフルエンサーによる広報活動の要望 ・能登への募金方法掲載の要望 〈その他〉・コーププラスのクーポンについて

組合員の声を活かす委員会

月に一度、組合員からいただいた声を共有し、それぞれの部署で反映・報告する会議を行っています。

みなさんの声がカタチになっています。

スープが胡椒辛いです。

という組合員さんの声にこたえて！

TSU KU RO

CO･OP（長崎風）ちゃんぽん（2食入）

ソテー野菜に添加している胡椒を20％低減しました。また、ソテー野菜にイカエキスを追加し、魚介のうま味を加えました。

福祉事業

高齢者施設の運営やちょっとしたお困りごとの支え合いなど、
くらしを支援するさまざまな事業を展開しています。

「コープに、いつまでも安心して自分らしくくらせる場所があったら」そんな組合員の声から、福祉事業所を臼杵市に3カ所、大分市に2カ所開所しています。近年では臼杵市にはサービス付き高齢者向け住宅「彩（いろどり）臼杵」、大分市には小規模多機能ホーム「にじいろ下郡」を展開し、サービスの幅が広がりました。

スマイルさぽーと事業

「コープくらしの助け合い活動」を2014年度に事業化した「スマイルさぽーと」。庭の草取りや掃除、食事づくりなど、くらしのちょっとしたお困りごとを組合員どうしで助け合い、支え合う活動です。各地域に研修を受けたサポーターが在籍し、支援を必要とする利用者のくらしに寄りそっています。

福祉事業所

［臼杵市］
- にじいろ
- にじいろ2号館
- サービス付き高齢者向け住宅「彩（いろどり）臼杵」

［大分市］
- にじいろ二目川
- にじいろ下郡

共済事業

コープ共済連・こくみん共済coopから事業受託し、宅配や店舗で保障をおすすめしています。
組合員の声から生まれたさまざまな保障は、時代のニーズに応え、現在も進化を続けています。

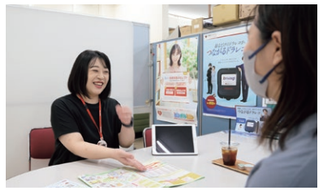
保障の相談会

宅配・店舗を飛び出して野外イベントなどでも保障の相談会を実施。
イベントに来場された方にCO・OP共済を知っていただくきっかけになりました。
また、加入中の方にも保障に関するお悩みをお聞きし、見直しやそれぞれに合った保障をおすすめすることができました。

関連・グループ会社

有限会社 ヒューマック大分

各種保険取り扱い、プレイガイドやドローンスクールの運営など



コープハウジング大分

コープ自由設計の家屋建築、外壁塗装や水まわりなどの住宅総合リフォーム

株式会社 コープサービスおおいた

コープおおいたの宅配業務受託、弁当宅配、介護食宅配、宅配水、その他請負事業

コープキッズおおいた

保育園や放課後児童クラブなどの児童福祉施設の運営、行政・各団体と連携した子育て支援

ハートコープおおいた

就労継続支援A型事業所の運営や作業受託などの障がい者福祉事業

夢ファームおおいた

農産青果物の生産・流通・販売、新規就農支援、地産地消の推進

FEATURE
特集
1

産直交流会

12 つくる責任 つかう責任
つくる責任 つかう責任
コープおおいたは、持続可能な消費と生産のサイクルを確保します。

コープおおいたでは「産直3原則」に基づき、生産者と組合員が交流できる「産直交流会」を開催しています。2024年度は計3回開催することができました。

コープ南大分・CO·OPふらいる

産直交流会を9月にコープ南大分、10月にCO·OPふらいるで開催しました。

九州乳業（株）、林兼産業（株）、和泉農園、五清同志会、（有）ベストクロップはしもと農園、JA全農たまごの6団体に参加していただき、多くの組合員との交流を楽しんでいただきました。

当日は試食を準備し、手軽で簡単にできるレシピが大変喜ばれました。

参加者からは「初めて知ることもあり期待以上だった」「生産者との交流も良かったし、参加者同士での交流も楽しくて参加して良かった」などの声をいただきました。

その他にもアレンジレシピや生産で大変なことなどについての話で盛り上がりました。

生協の産直は「産地直結」の略称で、生産者と交流できることが他の産直と異なります。これからも組合員のみなさんに産直について知っていただける活動やイベント、情報発信をしていきます。

水産産直交流会in長崎

長崎県松浦市の『日本遠洋旋網漁業組合（通称：エンマキ）』を訪問し、産直交流会を行いました。訪問した日は“しけ”が続いており、残念ながら魚の姿を見ることはできませんでしたが、EU HACCP（ハサップ）を取得している工場の清潔さ、温度管理システムのレベルの高さ、工場の規模に驚きました。また、自前の製氷工場や貯蔵能力日本一の製氷庫の見学をしました。見学後、代表理事組合長である加藤 久雄様より組合の概要や水産資源を守るための取り組みなどについてご説明いただきました。最後に商品への要望、食べ方の提案など組合員と生産者が直接交流し、予定時間に収まらないほど盛り上がり終了しました。

新人職員の産直交流研修

2024年度新卒採用の新人職員を対象に、産直生産者である「赤峯農園」にて研修を行いました。

生産者から直接野菜の育て方や工夫をお聞きし、お店に並ぶまでの農家の苦労などを実感しました。

また、研修の一環として、CO·OPふらいるで行われた産直交流会でも試食づくりを手伝い、交流会にも参加しました。

コープおおいたで取り扱う商品への理解を深め、店舗や宅配に配属後も活かしていきます。

FEATURE 特集 2

生産者訪問レポート
Producer visit report

つくる責任 つかう責任
コープおおいたは、持続可能な消費と生産のサイクルを確保します。

緑豊かな自然の中で健康に育つ産直牛

国東市　株式会社ファゼンダ国東

『（株）ファゼンダ国東』代表の浅井敏彦さん。オーストラリアで視察した牧場を参考に、花を育てたり、ミツバチを飼ったりと、楽しみながら牧場でのお仕事をされていました。

コープおおいたの『産直牛肉』となる牛は、『JA全農おおいた』との協同組合間提携にもとづき、国東市の『（株）ファゼンダ国東』と竹田市の『（株）くじゅう高原牧場』によって育てられています。今回ご紹介する『（株）ファゼンダ国東』は、以前も産直生産者だった時期があったのですが、2023年8月より、再びお付き合いがはじまった生産者です。

国東市安岐町にある『（株）ファゼンダ国東』は標高250メートル、晴れた日には愛媛県の佐田岬まで見渡せる眺望抜群の場所にあります。代表の浅井敏彦さんは、この牧場の経営をはじめて丸40年。常時700～800頭の牛を、浅井さんを含む5名のローテーションで365日休むことなくお世話をしています。

肥育している牛は、ホルスタイン種と交雑牛（ホルスタインと和牛の交雑種）の2種類。『産直牛肉』となるのはホルスタイン種です。どちらの種類も、酪農家が飼養しているホルスタイン種から生まれます。酪農家は、人工授精によって雌牛にホルスタイン種と交雑牛の子牛を出産させることで乳を搾っており、生まれた子牛は生後2カ月で市場で売られます。

約700頭いる牛たちは、月齢によって牛舎が分けられています。

昨今の物価高騰により、牛のエサ代にも大きな影響が出ています。

『（株）ファゼンダ国東』では、それらの子牛を市場で競り落とし、生後18～20カ月くらいまで肥育し、出荷。毎月平均30頭の子牛を仕入れて、肉牛として出荷するというサイクルを繰り返しています。

「子牛が健康に育っていくためには、うちの牧場に来て最初の3カ月間が勝負。子牛一頭一頭に合わせたエサの調整、こまめな体調チェックなどは欠かせません。子牛の牛舎は1週間ごとに消毒を行うなど、衛生面にも注意を払っています」と浅井さん。

牧場に来て間もない子牛は、特に体調管理に気をつかっています。

元々動物好きで、カウボーイの映画を観て牧場にあこがれた浅井さんは、大学時代にアメリカやブラジルへ渡り、移住を夢見て約2年間牧場経営を学んだ経験があるそうです。移住は叶いませんでしたが、28歳の時に国の事業を活用して、地元の安岐町で牧場経営をスタート。20年ほど前から肉の販売先に自ら売り込みをはじめました。当時としてはめずらしいことで、大変な思いもしたそうですが、今も牧場が残っているのは自ら販売をはじめたからこそ、と振り返ります。

「家畜としての牛、豚、鶏はどれも、人間のために人間がつくった命。その命を全うさせるために、最後まで育てて立派に送り出す。牧場をはじめた当初、お世話になった獣医さんから教わった、この考え方が今も基本です」

そんな思いを大切に、牛たちの命に向き合う浅井さんの牧場の牛たちは、ストレスの少ない環境の中でのびのびと健やかに育っています。

緑に囲まれた空気のきれいな牧場で、牛たちはのんびり過ごしています。

ホルスタインは赤身のさっぱりとした肉質と安定した価格が魅力ですが、肥育する牧場が元々少ない上、最近は酪農家の減少によって子牛の頭数が減っており、浅井さんは大分県内だけでなく熊本の市場まで買いに行くこともあるそうです。今後、ホルスタイン種の子牛の購入はますます困難な状況になることが予想される中、産直生産者としてホルスタイン牛を肥育してくださっている『（株）ファゼンダ国東』の皆さんに、そして牛たちの命にも感謝して、『産直牛肉』を買い支えていきたいですね。

産直牛肉

※店舗、宅配カタログ「食べちょくれ！おおいた」「ふれあい」にてお取り扱いしております。

コープおおいたの「産直」とは

単なる産地直送ではなく、つくる人と食べる人がしっかりとつながっている「産地直結」です。

産直3原則

❶生産者・産地が明らかであること
❷栽培・肥育方法（農薬・肥料・飼料など）が明確であること
❸生産者と組合員が交流できること

産直マーク

野菜・果物・米については、「作物栽培慣行レベル基準」に対してどれだけ農薬を削減して生産されているかを★の数でお知らせしています。

・野菜
・果物
・米

・畜産
・たまご
・水産

TOPICS

コープ南春日

おかげさまで2025年2月でコープ南春日は1周年を迎えることができました。

コープ南春日オープン1周年

2025年2月のオープン1周年を記念して地域、組合員のみなさまへ感謝を込めて1周年大感謝祭を開催しました。からあげの詰め放題やマグロの解体ショーなどさまざまな楽しいイベントを企画し、多くの組合員にご来店いただきました。今後も地域のみなさまに愛されるお店を目指してまいります。

隣接マンション入居者へ組合員加入受付

コープ南春日隣接の「MJR大分サーパスコート」に入居される方へ組合員加入受付を行いました。

ハーフバースデー

オープンして半年の際にはいつもご来店いただいている組合員の皆さまに感謝の気持ちを込めてさまざまな企画を実施。2,000円以上ご購入いただいた方を対象に、豪華景品が当たるガラポン抽選会を開催しました。夕方のタイムサービスでは、お子さんを対象としたおかしすくいや、「たかじょう青果」の冷やしフルーツ、炭火で焼き上げた焼きとりなどを店頭スペースで販売し、お祭り気分を味わっていただきました。

平和活動

争いのない世界を次の世代へ受け継ぐために。被爆体験、戦争体験を次世代に継承する活動を行っています。

日田市「平和のつどい」

日田市民生協との合同企画である本企画は30年近くにわたり開催されてきましたが、ここ数年コロナ禍の影響で中止していました。2024年7月に再開することができ、今回は暑さ等を鑑み献花・黙祷のみの短時間開催とし、参加者全員で平和への祈りを捧げました。現在世界中で戦争が続いている状況を憂い、再び日本が戦争を繰り返さないことの重要さを確認して平和への思いを馳せる時間となりました。

大分市「平和のつどい」

2024年8月17日、「戦争の悲惨さ、恐ろしさと平和の尊さ、大切さを次世代へ」をテーマに、大分市のコンパルホールにて開催しました。ステージではオカリナ演奏と映画上映、入り口のホワイエでVR・MR体験（戦艦大和や旧広島の街並み体験）を実施しました。参加者からは、「オカリナの演奏、素晴らしかったです！感動しました」「映画は戦争の恐ろしさを伝える良い内容でした」などの声をいただきました。

ピースアクションinナガサキ

2024年８月7日・8日、入協３年未満の職員たちを中心にピースアクションinナガサキへ参加しました。初日は猛暑の中、平和案内人の方にガイドいただき街歩き。爆心地公園をはじめ、原爆の爪痕が残る地を回りました。２日目には被爆者による講演会に出席し、二重被爆者としてテレビやメディアでも多く紹介されている山口彊（つとむ）さんのお孫さんである原田小鈴さんのお話を伺いました。生協職員として「平和」について考える大切な時間となりました。

ぬく森

2023年12月に開所した「みんなのスペース ぬく森」。赤ちゃんからお年寄りまで、年齢や国籍、障がいの有無を問わず、誰もが思い思いにゆっくり過ごせる場所です。

開所1周年を迎えました

大分市森町西にある「みんなのスペース ぬく森」は2023年12月に開所し、1周年を迎えました。お祝いにボランティアのみなさん、来所されたみなさんと一緒にケーキをいただきました。

美術館・工場見学ツアー

2024年8月、路線バスに乗って利用者のみなさんと大分市美術館に行きました。中には初めてバスに乗るお子さんもいたため、乗車時や運賃の支払い時にはドキドキしている様子でした。普段は機会の少ないアート鑑賞を、大人もお子さんも楽しめたようです。別日の九州乳業（株）の工場見学では普段飲んでいる牛乳やヨーグルトの製造工程を見学し、直売所で買い物をしました。どちらのイベントも「夏休みの日記に書いたよ！」とうれしい声をいただきました。

福島支援

東日本大震災から14年が経過しました。
コロナ禍による交流の一時休止を乗り越え、2024年度も多くの交流・学習の機会を創出することができました。

ふくしま物産展を開催

2024年8月23日・24日にJR大分駅前広場で開催されたOBS感謝祭にて「ふくしま物産展」を開催しました。コープおおいたでは東日本大震災以降、風評被害に苦しむ被災地に寄りそい、買い支えの活動を続けており、ふくしま物産展はこの大分の地で、福島県産品を多くの方にPRすることを目的としています。2日間とも多くの方に来場いただき、大盛況となりました。また、コープおおいたの店舗でも福島県産の桃を販売し、連日、多くの組合員のみなさんにご購入いただきました。

福島県視察訪問

2023年度に続いて、2024年度も新人職員を中心に福島県を訪問。実際に被災地を訪れ当時の様子を見て、聞いて、震災の爪痕と復興について学びました。

大分県内の小学生が福島県新地町を訪問

2024年8月2日～4日、昨年に引き続き、福島県相馬郡新地町の招待を受けて大分の子どもたちが同町を訪問しました。大分県内の小学校5・6年生18名が新地町の震災復興についてや、新地町の歴史・文化を学び、アウトドア体験も行いました。

子育て支援

子育てをするための豊かな心を育み、親子のコミュニケーションをサポートします。

はじめてばこ

「はじめてばこ」は、これからたくさんの“はじめて”に出会う赤ちゃん、ママ、パパを応援するため、特製の「童謡カード」やさまざまな企業からのプレゼントを詰め合わせています。コープおおいたでは、地域社会貢献と子育て支援の取り組みとして、箱詰め作業と各ご家庭への配送を担当しています。箱詰め作業は、グループ会社の（株）ハートコープおおいた（就労継続支援A型事業所）が担い、働きがいとやりがいの創出へとつながっています。

※箱の中身は時期や協賛企業によって変わります。

TOS主催「はじめてばこフェス」ハイハイレース

2024年10月19日に大分市荷揚町複合公共施設で開催された「はじめてばこフェス」のハイハイレースに特別協賛しました。578組の応募の中から厳正な抽選の結果、132組の親子が参加し、応援のご家族の声援とTOSテレビ大分のアナウンサーのみなさんの実況も加わって、大盛り上がりとなりました。

ふれあい体験農場

九重町で田植えの体験、豊後大野市で白ねぎの収穫体験を行いました。食べ物がどのように育てられて家庭に届き、食卓に並ぶのかを、体験をとおして親子で学びました。

ふらいるdeおはなし会

CO・OPふらいるで絵本の読み聞かせを行っています。夏休みやハロウィンにはスペシャルバージョンで開催し、お菓子のプレゼントに大はしゃぎのお子さんの姿が見られました。

1.5℃の約束
―いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。

代表理事
専務理事
江藤 隆康

1年を振り返り、前の年と比べてどれだけ多くの異常気象に起因する出来事が日本で起こったでしょうか？記憶に新しいところでは、冬の豪雪に、急な気温上昇、そうかと思えばまた逆戻り。3月末になっても雪や雹(ひょう)が…。各地の山火事でさえ、その延長線上にあるものとも考えられますし、猛暑や大雨・台風、しかも思いもよらない地域に発生するなど、今や何が起こっても不思議でない、そんな環境の中でわたしたちのくらしは営まれています。残念ながら、これも過去のわたしたちのくらしが必然的に招いている結果なのです。

SDGs目標13「気候変動に具体的対策を」。まさに、全世界の喫緊の課題として取り組まなければならない目標です。しかしながら、重要な条約でもあるパリ協定を批准していない、または、承認・加入手続きをしていない国も存在するばかりか、極めて深刻なことは、CO_2排出国No.2でもある国が政権の交代により2回目の離脱を表明していることであり、未来の危機が明白にもかかわらず、世界は一枚岩ではないということです。この由々しき事態に関する議論が前進することを望むばかりです。

さて、表題とした「1.5℃の約束―いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。」TVでこの言葉を見かける機会が増えました。これは、NHK・民放6局連動で2022年に立ち上がった、国連広報センターとSGDメディア・コンパクト共同の気候キャンペーンのメッセージであり、その決意表明には「危機を訴えるだけの時間は終わり、もはや『世界の問題』ではなく、『あなたの危機』である」と述べられています。前述した未来の危機が迫っているということです。ここ数年、この巻頭言では、カーボンバジェットについて触れてきました。気温上昇を1.5℃に抑えるために残された二酸化炭素排出上限ですが、その排出枠は超過寸前といえます。いま一度、世界を知り、私たちのできることを考え、実行に移す、多くの賛同者の一歩が必要なのではないかと思っています。親切にも国連による「個人でできる10の行動」が、まとめられていますので、よろしければ一度チェックしてみてください。

コープおおいたを含む多くの生協では、継続して「コープサステナブルアクション」を展開しています。共に「知り」「学び」「アクションする」仲間を増やし、持続可能な世界の実現を目指す取り組みです。気温上昇することで、世界で既にどんなことが起こっているのか、数年後にどんなことが起こるのか、みんなでいま一度学びましょう。学ぶとアクションに変わると思います。このことを今回、あらためての提起とします。このレポートにて、1年間のコープおおいたの取り組み結果をご確認いただき、次年度はどれだけすすめることができたのかの点検材料にしていただきたいと考えています。緩めることなく、ステップアップできた結果を、次回報告できることをお約束したいと思います。ぜひ、ご一緒に次世代への継承をすすめていきましょう。よろしくお願いします。

2030環境目標設定に向けた取り組み

2017年5月、日本生活協同組合連合会2030目標検討委員会は、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対し、SDGsやパリ協定など国際的な枠組みを踏まえた温暖化対策の方向性と、生協が目指すべき削減水準について、右の「提言」にまとめました。

① 自生協で2030年温室効果ガス削減計画を策定し実践を開始すること
② 省エネ対策を徹底し、設備や車両を環境の視点から見直していくこと
③ 再生可能エネルギーの電源開発に生協全体で取り組むこと
④ 組合員と共に、学び、共感を広げていくこと
⑤ 地域と共に持続可能な社会をつくる動きをつくり出していくこと

日本生協連制定
「生協の2030環境・サステナビリティ政策」
10の行動指針
に関連するSDGs目標

環境基金委員会報告

コープおおいた本部事務所から廃棄される古紙などや各店舗のリサイクル食品トレー・有料レジ袋の益金を「環境基金」として積み立て、環境活動や助成事業に取り組んでいます。

大分県地域環境保全基金寄付金

大分県と締結している「レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」にもとづき、有料レジ袋で得られた益金の一部を、環境保全の取り組みに役立ててもらう目的で大分県へ毎年お贈りしています。

絵本の贈呈式

環境基金の一部を使用し、県内の幼稚園や保育園へ絵本を贈呈しています。「環境をテーマにした」絵本を贈ることで、モノを大切にする心を育む教育の充実のために取り組んでいます。

地球温暖化防止の取り組みと結果

環境方針として掲げる「各事業所におけるエネルギー使用の効率を高めて、供給高1億円あたりのCO_2排出量を、定期的に実測把握・検証し、抑制する」という目標に基づき、事業と環境の連動に取り組みました。
その結果、2024年度のCO_2総排出量は4,632t-CO_2となり、2023年度の4,727t-CO_2から約2%の削減を達成しました。
また、供給高1億円あたりのCO_2排出量は23.16t-CO_2であり、前年度の24.09t-CO_2に対して3.86%の削減となりました。
引き続き、エネルギー使用の効率化と環境負荷の低減に努めてまいります。

●2024年度の取り組み結果（供給高1億円あたりのCO_2排出量）

		使用量	単位	CO_2（t-CO_2）	供給高	供給高1億円あたりのCO_2排出量	2023年度参考値
電力	九州電力	8,550,684	kWh	3,437	200.02（億円）	23.16（t-CO_2）	24.09（t-CO_2）
燃料	LPG	8,795	㎥	26			
車両燃料	ガソリン	278,307	L	646			
	軽油	202,680	L	523			
	LPG	0	㎥	0			
	合計			4,632			

※供給高の数値は、収益認識会計基準の適用前のものです。

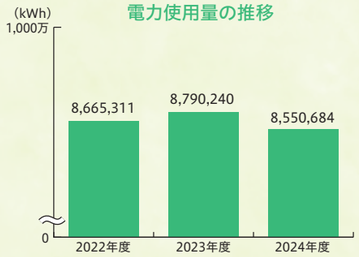
電力使用量削減の取り組み

エネルギー使用の効率化を目指し、以下のような設備面での改善を実施しました。

主な取り組み
①空調および冷設備室外機の高圧洗浄による空気吸入量の向上
②室外機への散水による吸入空気温度の低減
③冷設備室外機における外気ショートサーキット防止対策
④冷設備機器の定期的なメンテナンスおよび更新

■電力使用量の推移
2024年度の電力使用量は8,550,684kWhとなり、2023年度と比較して2.7%の削減を達成しました。なお、2024年度末には新たに室外機（エアコン・冷凍冷蔵設備）への遮熱塗料塗布を実施しており、2025年度にはさらなる省エネ効果が期待されます。

電力使用量の推移



燃料使用量削減の取り組みと結果報告

事業活動と環境負荷低減の両立を目指し、輸送部門において以下の取り組みを推進しました。

主な取り組み
①安全エコドライブの実施
②安全かつ確実な配送を基本に、より効果的なルートづくりを実施し、効率的な運行を追求

■CO_2排出量の推移
2024年度の車両燃料使用総量は微増し、CO_2排出量は1,169t-CO_2（前年比1.5%増）となりました。
これはディーゼル車からガソリン車への切り替えが一因と考えられます。車両1台あたりのCO_2排出量は5.2%削減しており、効率的な運行の効果が見られます。供給高1億円あたりのCO_2排出量は0.4%の削減となりました。
今後も、より一層環境に配慮した運転と車両運用を進めてまいります。※この数値は（株）コープサービスおおいたおよび（株）流通サービスの数値も含みます。

全体		2023年度		2024年度	
		実績	CO_2（t-CO_2）	実績	CO_2（t-CO_2）
ガソリン（L）	CO_2排出量	260,874	605	278,307	646
軽油（L）	CO_2排出量	208,533	538	202,680	523
LPGガス（㎥）	CO_2排出量	2,639	8	0	0
合計	CO_2排出量	472,046	1,151	480,987	1,169
前年比		97.6%	97.5%	101.9%	101.5%
供給高（億円）	1億円あたりCO_2	196.26	5.87	200.02	5.84
前年比		103.5%	94.2%	101.9%	99.6%

※供給高の数値は収益認識会計基準適用前のものです。

太陽光発電レポート

2024年度の総発電量は757,217kWhとなりました。

	2023年度（kWh）	2024年度（kWh）
コープ南大分	200,530	192,161
コープ下郡 ※1	172,449	3,102
三重センター	52,778	52,408
宇佐センター	57,888	55,338
日出センター	56,681	56,473
コープ別府店	59,002	56,782
コープうすき	53,835	52,829
コープ南春日	–	288,124
合計	653,163	757,217

※太陽光発電による発電量を大分県の家庭等で使う電力で換算すると、333人分の年間使用電力に相当します。（大分県統計データ　平成27年度の年間家庭用電灯使用電力量にもとづき1人あたり2,274kWhにて算出しています。）　※1コープ下郡は2024年3月20日に閉店しました。同店舗の太陽光発電システムは、2024年4月に撤去したため、2024年度にも発電実績が積算されています。

資源回収の取り組み

「一人ひとりの一歩は小さいけれど、みんなの力を合わせれば大きくなる」を合言葉に、2024年度も多くの組合員のみなさんに、コープおおいたのさまざまな環境活動にご協力いただきました。

2024年度 回収量の報告

古紙類（牛乳パックとカタログ等）

約101万3,751kg

前年比101.7%

回収量の7割がトイレットペーパーやティッシュペーパーの実質の原料となります。
コアノンロール130m（シングル・1個276g）で換算。約257万1,108ロールが再生されています。

タマゴパックの回収量

約7,368kg

前年比166.7%

タマゴパックは、古紙や木屑と一緒にリサイクルされてRFPという固形燃料に再生されます。RFPはさまざまな工場でボイラー燃料として利用されています。

プラスチックトレーの回収量（店舗）

約2,966kg（約59万3,200枚）

前年比105.2%

枚数は1枚平均5gとして換算。
回収されたトレーは、一旦溶かされてエコトレーになります。店舗に入っている一部のトレーはリサイクルされたエコトレーです。

マイバッグ持参人数（店舗）

363万7,540人

前年比98.8%

マイバッグ持参率85.7%。
レジ袋1枚に原油10㎖（原油＋製造エネルギー用）が使用されています。

ペットボトルキャップ回収量（店舗）

約1,653kg（約66万1,200個）

前年比86.4%

回収されたペットボトルキャップ（1個あたり2.5g）は、回収業者を通じてプラスチックのリサイクル原料として再生され、トレーや園芸用品になります。

集品袋・カタログセット袋回収量（宅配）

約9,086kg（約302万5,638枚）

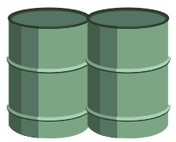
前年比104.3%

1枚平均3g（333枚/1kg）として換算。リサイクルポリ袋として再生されています。

廃油回収量（店舗）

約2万8,357ℓ

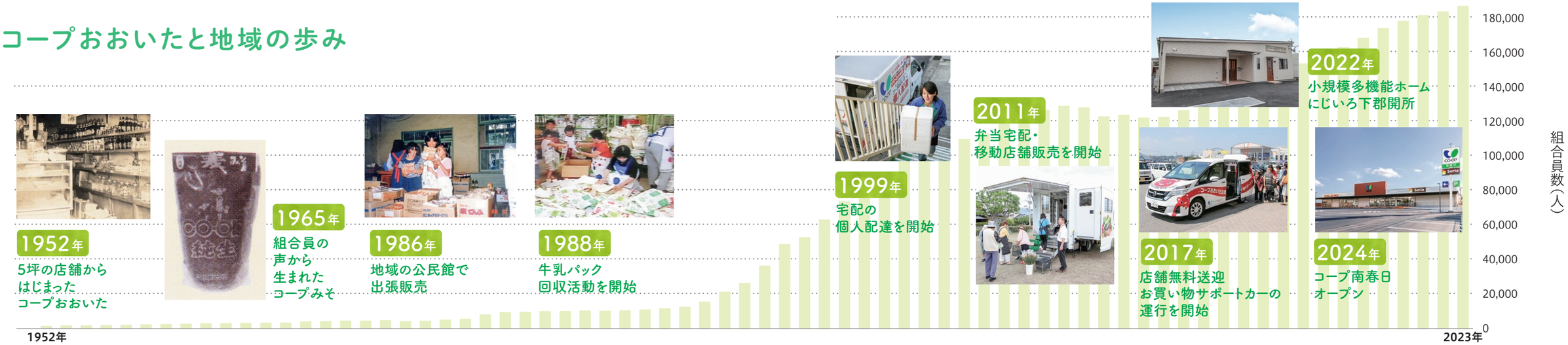
前年比81%

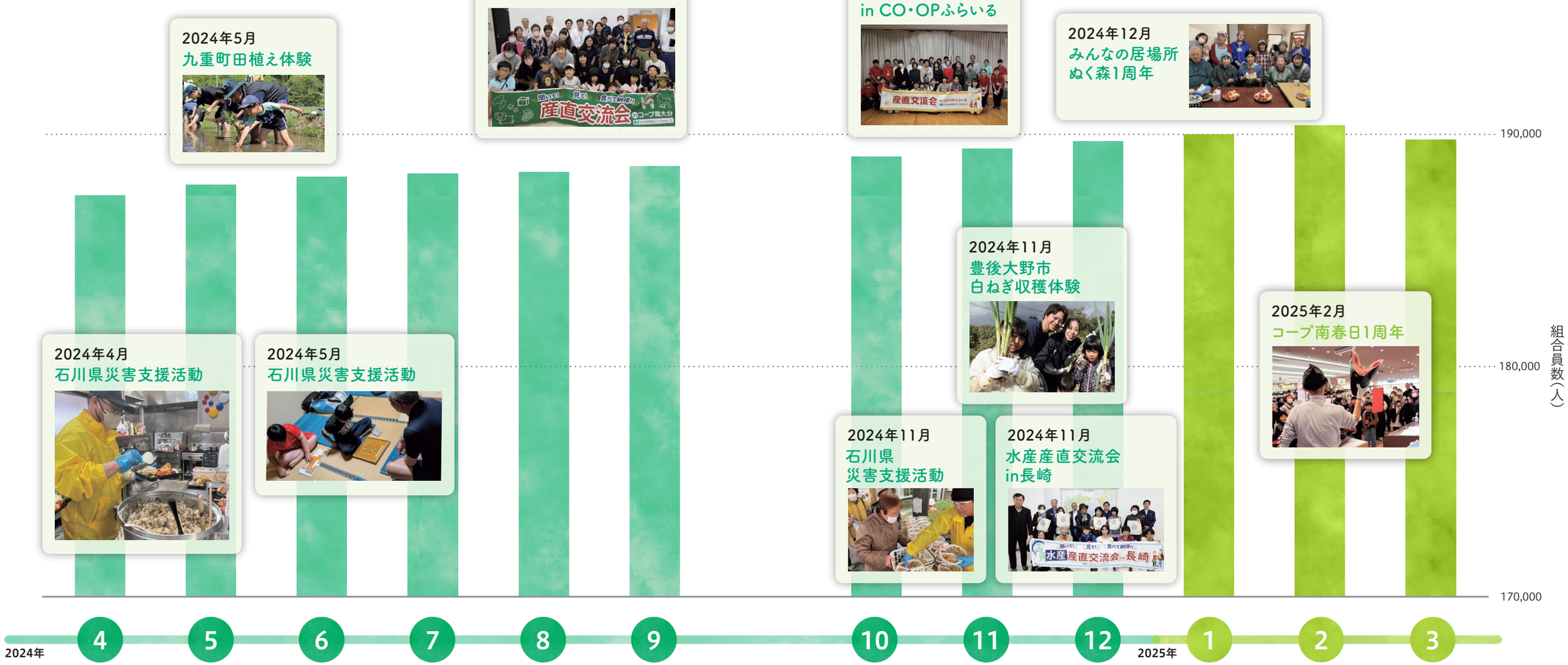


ドラム缶（400ℓ）に換算すると、約71本分に相当。バイオディーゼル燃料のほか、一部はせっけんに生まれ変わっています。
※コープおおいたでは燃料として使用せず、廃油の回収のみ行っています。

※コープ大分駅店はテナント出店のため、リサイクル回収BOXの設置、廃油の回収ができず対象外となります。　※イラストはイメージです。

コープおおいたと地域の歩み



1年間のできごと

〔2024年4月-2025年3月の組合員数推移〕